



【そびえ立つ建物は竹をイメージし、周りに節をもつ。大晦日のカウントダウンの後、そこから夜空に向け一斉の花火となる】

台北のランドマーク「台北 101」である。
地上 101 階建てだから、この名前、高さは余裕で 500 メートルを超え、つい最近まで世界一の高層ビルとして世界に君臨していたのだ。

今回クルーズの寄港地は台湾・基隆（キールン）、台北市から東に 25 キロの場所に位置する。
台北はほんのすぐそば、そこでクルーズのオプナル・バスツアーで、ここに繰り出した。

国民革命忠烈祠、中正記念堂、故宮博物院・・・そして最後にここ「台北 101」

現地通訳・ガイドは日本の大学を卒業し日本の企業にも努めていたという初老の仁であった。
彼とは観光の合間に、個人的にもいろいろ話すことができた。

駆け足ながらの観光であったが、この中にも東アジアの有事が現実味を帯びてきているという事実を、
今、この地で、こうして当事者の台湾の人々と共有していることに複雑な思いを抱きながらの台北訪問となった。